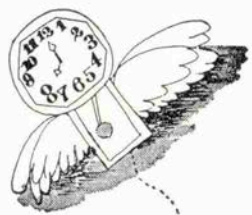


神戸百店会
だより

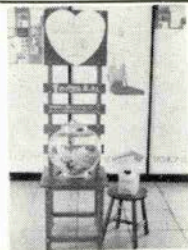


★三愛で愛の募金

去る二月十日から二十四日、女の子のアイドル三愛で恒例の愛の募金が実施されました。十日から十二日まで三階のお店入口に赤いかわいらしい椅子の上にプレゼントボトルと小鳥の巣箱のような赤い屋根の募金箱が置かれヤングの善意を待ちに待っていました。また、後二日間は、サンブラザ入口で、三愛のかわいい女の子が募金箱を持ちシヨッピングの人々に呼びかけていました。

★バレンタインデーの愛の募金でした。

お菓子のお店あれこれ ウーマン・リブを反映してか、バレンタインデーに女性からの愛の告白続出。さんちかスイツタウンでは二月十日から十四日までバレンタインセールが催され、お菓子のお店は愛でいっぱい。風月堂では、白とピンクのバラの花もかわいいミニケーキ三〇〇円、ユハイムではバレンタインチョコ四四〇円、ハート型ケーキ一五〇円、ドンクではバレンタインデコ五〇〇円、一、〇〇〇円、変わったものではハート型動物セツト五〇〇円。モロゾフでは真赤なケースの中にハート型チョコの入ったメイクラブ三〇〇円他、チョココレレーユハイムコンフェクトは、彼とのラブタイムを約束するユーコン・ブイ一〇〇〇円、二二〇〇円。また、



愛の募金ボックス

ラブハートボックス五〇〇円、一〇〇〇円などどんな売れていくゴンチャロフでは、田中佐和さんの恋占いカードも人気絶頂。三宮高架下のコスモポリタンではウインドーにハートが散りばめられ、愛のメッセーじがプリントされた包装紙も素敵。バレンタインプレゼントを受けた男性は誰？



バレンタインデーの陳列風景

★春のバールを！

春の装いにすっかり改めたあなたにペンダント、ブローチはいかが？元町の北村真珠店にはあなたのおしゃれをお手伝いをする素敵なバールが揃っています。シルバリーのペンダント三〇〇円前後、ルビー入りペンダント八〇〇円、パール一〇〇〇円、小粒のパールがちょこんとついているイヤリング四〇〇円前後、お花や蝶のブローチとお買得商品があります。また北村パールには、プラチナ純度900のマリッジリングもあり結婚シーズンの愛のプレゼントにもどうぞ。

●ショップトビックス

★神戸国際会館1Fのベニ毛皮店には、乙女座、射手座など十二星座や、かわいいベットのブローチがあります。あなたも一ついかがですか。また、一月二十九日から二月十一日までは、パリファッション毛皮感謝セールが開かれ、毛皮ファンに喜ばれました。世界的に値上がりしている毛皮は、悲しくも今秋さらに値上がりするそうです。

★お菓子の風月堂が、創業七十五周年を迎え、その記念として一月二十二日、二十四日オリエンタルホテル2Fで祝賀会を催し、来客の人々の祝福を受けました。今後ともよろしくとのことです。

★高級婦人服店、お仕立てのコマツヤが、三月三十一日から四月二日の三日間、さんちか広場で舶来品とレース展を開催します。これからの季節に、またバディにも色どりを添える素晴らしい品々をぜひ、ごらんになってください。

★元町三丁目浜側の本高砂屋1Fが三月中旬改築オープンします。和菓子専門の純日本のお店で、実演コーナーも設けられ、茶席も出来る予定です。どうぞお楽しみに！

★舶来雑貨の店サノヘが三月二十二日、二十三日両日、サノヘキヤビタルショーをニューポートホテルで開催します。お忘れなく。

★お菓子のコトブキでは、お雛祭人形のお菓子セツト五〇〇円、お雛あられ一五〇円があり、また、風月堂でも、かわいいお雛さんのためのお雛さんのケーキ、お内裏さんとお雛さんのセツトで八〇〇円他生菓子、おひしがたくさん揃っています。おみやげにどうぞ★トア・ロードのスギヤ本店にはVネックのストライプセーター三〇〇円前後、テラー・鈴の清潔感漂うブラウス、カッターブラウス一九〇〇円から二二〇〇円、春の爽かさを表現するビュローンの商品、洒落たベストと春のおしゃれ着が揃っています。スギヤのドアを開いて春を買ってみては。

ポケットジャーナル



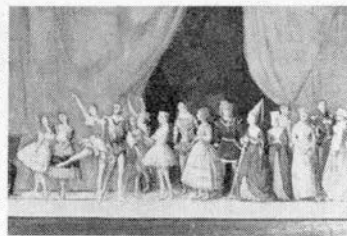
★「文化の殿堂」に どん帳の下絵出来る

文化都市を目指す神戸市は、この七月末の完成を目指して、目下「神戸文化ホール」(中央公会堂)の建設を急いでいるが、この程、その大・中ホールを飾るどん帳の下絵が完成した。

大ホール(定員二千百人)中ホール(定員千人)とも二張りで、大ホール用は縦九・五メートル、横二十五

メートル、重さ一トンもあり、一方、中ホール用は縦八・四メートル、横十九メートルで、制作費は一張につき一千万円という豪華なものである。

大ホール用としては、一つは本誌の表紙絵でおなじみの小磯良平画伯によるもので、四十三名の群像を画面いっぱい配し、神戸のこれからの文化を担って行くひとりとりを模したものである。(写真、部分)もう一つは、神戸が誇る



市民ホールに使われるどん帳の一部

「南蛮屏風」(市立南蛮美術館所蔵)から、安土桃山時代の狩野内善が描いた交易図から寺石正作氏(京都芸大講師)が制作したもので、これまた神戸文化の一つの象徴となるだろう。

他方、中ホール用として

は、上原茂氏(川島織物美術工芸本部長)の「あじさいと太陽」と、寺石正作氏がどん帳用に制作した「源平合戦屏風」の二種類がある。いずれもこの七月末には一般市民の前におめえすることになる。「神戸っ子」は勿論、内外のひと

にも神戸文化の健在さを誇示するものとなることは、まず間違いないと思われる。

★神戸ライオンズクラブ 結成二〇周年を迎える

神戸ライオンズクラブ(会長園田正和氏)はこの二月で結成二〇周年を迎え、記念特別行事を行なう(特別行事委員長樋橋秀一氏)。

前夜祭として三月十四日午前九時より広野、小野両ゴルフコースにて記念ゴルフ大会が行なわれ、賞品も盛りだくさん用意されている。また、三月十五日には国際会館大ホールおよびオリエンタルホテルにて式典と祝宴が催され、アトラクションには、菅原洋一ほかが出演する。

★NHK連続ドラマに 元町が登場

四月からNHKで新しい連続ドラマが放映される。茂木卓介原作でB.K.局制作の「けったいな人びと」が



ロケをする八千草薫と岡田由紀

誕生日 ありがとう 運動



★ちえおくれと社会

(ちえおくれの)子どもが社会に適應していくというだけではない、社会が子どもを受け入れる社会に、社会自らが適應の態勢をとるということが大切だ。社会というものは動かないものではない。変わってゆくものです。歴史的發展をたどってゆくもの。その發展の中心として、こういう人たちが十分に活躍して生きてゆくような社会を形成する、という役割が、社会自身の中にもあるはずなんです。われわれは社会人として、そういうことを本気で考えていかなければならないはずなんです。それを胸に抱けておいて、社会がまるで固定したものであるかのごとく考えて、子どもだけに社会に適應しろと尻ひっぱたいてやるのが今日の姿であるとするならば、それは反省せねばならないことだと思っております。(本運動編「共に育つ」)

右は「精進庵の父」故糸賀一雄氏の講演の一節です。この人たちは共に歩む社会であるためにはどのようにしたらいいか、専門家や一般市民の私たちボランティアやみなと一緒に考えて行動してゆきたい、と思います。

★誕生日ありがとう運動とは

誕生日のお祝いの中から意圖的に百円節約し献金する。各家庭に、この問題について話し合う機会をもつ。このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精神薄弱児(者)であつたか、包む雲間気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日ありがとう運動本部

神戸市若合区御幸通八の九の一神戸国際会館一階(郵便局の前)
(二五一)八一六一内線316

それである。

これは、昭和初期の「古き良き」大阪と神戸を大阪の海産物問屋の一家を通して描いたものであり、その中にストリーとは関係なく現在の大阪、神戸の姿をはさんで行くという趣好。

この二月二十三日に元町通りにてロケが行なわれるが、役の上ではなく、素顔の八千草薫が商店を訪れ、主人と元町の今と昔について語るといふもの。

★おしとやかに針供養

神戸国際会館きもの着つけ学院（河崎聖子学院長）現代式和裁科（高井敏子主任）の講師と生徒約百名は二月八日午前十時からいぬい日頃お世話になっている古針や折針を持って集まり生田神社（神戸三宮）で恒例の針供養を行ない一年の無事を祈願した。

同学院は現代和服の權威高林三郎氏が顧問でもあり、一反だけできものと茶羽織をつくったり、あるいは新しいコートのつくり方を考案するなど現代にマッチした研究や授業、また海外研修旅行も行なっている。ミニ・マキシ・パンタロンやジーンズの調歩する近頃、総勢が美しい和服姿で参列する様はまさに壮観であった。

引続き一同は同神社内の

えびら会館で神戸史談会理事の森貞雄氏から針供養の起源や生田神社の由来などの講話をきいて有意義な一日を過ごした。

★池坊・川上斗曜子個展

去る二月九、十日の両日明治生命ビル12Fに於て、生花の個展が開かれた。会場には、現代感覚を幅広くとり入れた川上斗曜子（神戸市長田区二葉町十丁目）さんの三十年間の生花人生



川上斗曜子さん

に基づく個性豊かな作品三十余点が展示され、非常に好評であった。

特に花とマッチした詩文解説などを作品に付けた新しい試みは、作者と観賞者の間に暖かい交流を生み各々の作品から川上さんの生花に対する情熱が伝わってくるようであった。

また、この日は同会場横で呉服のちびやの春の双美苑も開催され、春爛漫という感じであった。

★朝鮮美術工芸展開催

三月十七日から五日間、生田神社えびら会館三階で

棚谷篤志郎氏（汎亜美術工芸社）による朝鮮美術工芸展が開かれる。題して「白やさしさの美学」珍らしいのは現代韓国作家による東洋画。現代韓国の文化を知ろう。上で格好な催し物である。

★響きわたる蛭子太鼓

カタ、カタ、カタ……小気味よい樽太鼓の音が軽快に響き渡る。

二月十一日、午後一時。相楽園会館で催された八昭和四十八年神戸新聞販売店大会の会場でのこと。

この日、東川崎恵比須神社の子供たち十五名の手によって蛭子（えびす）太鼓が参加者全員に披露された。東川崎小学校のPTA会長でもある坂田祝一さんに話をきいてみる。

「東川崎の恵比須神社で



元気に太鼓をたたく子供たち

子供たちだけの太鼓をやりに出したのは二年前です。大人が叩く太鼓はあっても子供たちだけというのは全国でも余りないんじゃないですか。今、小学校の二年生

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館 第三回兵庫県美術祭

白鶴春季展（中国陶磁）
3/15 4/22

★南宝美術館
日本名刀展
3/5 3/24

★そこ百貨店六階画廊
桐型人形展
3/2 3/7

知部真千作陶展
3/16 3/21

第二回西中博油絵展
3/23 3/28

★大丸百貨店五階美術画廊
近世名家墨跡展
3/9 3/13

備前民芸展
古美術茶道具洗品展
3/9 3/13

★KCCギャラリー
大林甲真書展
3/22 3/27

★新A流展
第六回神戸婦人写真作品展
3/27 3/5

山田幹男写真展
世界の服地祭
3/13 3/19

★さんちか広場
春を呼ぶフラワーショー
3/1 3/6

正木悠紀個展
新日本華道生花展
3/8 3/13

★さんちかギャラリー
兵庫県立美術館会友展
3/24 3/29

国鉄鷹取八人展
ユイガラ展
3/1 3/6

★三葉ギャラリー
日本画三人展
3/15 3/19

★安田画廊
パンフラワー展
3/1 3/6

つみみ展
私立神港高校写真部展
3/7 3/11

山手短大OG展
伊万里系肥前古陶磁展
3/21 3/25

★新光ギャラリー
伊万里系肥前古陶磁展
3/4 4/22

から六年生まで十五名の子供が練習に励んでいます。

私も、この蛭子太鼓が単に私どもの神社だけのものではなくて、神戸の新しい郷土芸能として定着してくればいいと、そればかりを願っておるのですよ。」

今年の神戸まつりでは二十日の本まつりに参加、神戸市民はじめエトランゼ諸氏にも神戸に蛭子太鼓ありということを知って貰うのだという意気込みには熱っぽいのが感じられる。

舞台では樽太鼓が終り、胴太鼓の連打が始った。新しい神戸の郷土芸能が今まさに生まれでんとする、そ

の息吹きが充分に感じられる響きであった。

★フラメンコに情熱を燃やす向田さん

フラメンコを本来の姿に——こう主張するのはギタリストの向田俊博さん。

「今までのフラメンコというと単なる踊りの伴奏だとしか考えられていなかったんですね。派手な踊りの蔭でそれに合わせた音を出しておればよかった。日本ではフラメンコというういうイメージしかないですね。それじゃ駄目なんです。クラシックギターと同じようにフラメンコギターの音楽そのものを知って貰いたいと思うのですよ。」

花時計



「神戸まつり」がやってくる

第三回目の「神戸まつり」は5月19日20日の両日にわたって実施される事が決定した。

タイトルは花と海と太陽の祭典ということである。例年どおり、旧居留地、フラワー・ロードを

中心にした、神戸まつりパレード、第四突堤などで行われる港のパレードと華やかな祭りが予想されるほかに、六甲ファミリまつり、湊川はつぴいひろば、須磨音楽の森そのほかに垂水、西神および神戸市域、すべてが祭一色につつまれる。

また、芸術広場や青年広場、友情の広場が賑やかに話題をあつめるだろう。祭の要項がきまれば祭りに参加する人たちの準備に心せわしくなる。

その彼がこの三月四日、午後二時から県民小劇場で「スプリング・イン・ギター」というコンサートを開いた。内容はソレアス、サムブラ、マラゲーニヤなどで入場料は八百円。

主催はリンコン・フラメンコ。これはフラメンコの本当の姿を知って貰うためのサークルのようなものでフラメンコを愛するひとと演奏者とのパイプの役割を果たすために最近結成されたとのこと。

ともあれ、今回のコンサートへの成否がこれからの日本におけるフラメンコギターの行く末を占う一つの指標になりそうである。

いづれにしても、市民が参加する祭りとして、港まつりを発展解消させての神戸まつりである。祭りというものがもつ豊かなコミュニケーションの復活を願っての、神戸まつりである。

不満や理屈はさておいて、神戸つ子らしい明るいお祭りにしたいもの。それには、一人でも多くの市民が参加することだ。団体や会社やグループで底抜けの初夏の神戸を楽しみたいものだ。

(Y)

KOBE POST

★神戸ファッションアンソロジー・オン(K・F・A)の事務局が、一月二十二日より、神戸青合区浜辺通五丁目二ノ一神戸商工貿易センタービル(七F)七二四号室(六五・一〇七八・二五一〇一三三)(会長川上勉)に開設。

★前神戸支局長の重森守氏は、二月に尼崎市南武庫之荘一丁目二九〇番武庫之荘二〇七号(六〇六・四二二・二九三)へ転居されました。

★毎日新聞神戸支局長の大久保文男氏が二月一日より大阪本社の学芸部長に転任され、後任は渡田氏です。

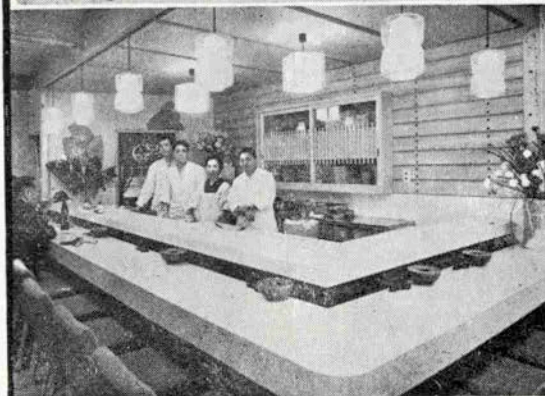
★本誌でおなじみの石阪春生氏が大阪フォルム画廊で、三月二十三日と四月三日迄個展を開かれます★アロード画廊(石橋直樹)が東京事務所を開設。二月五日、七日迄談笑会を開きました。住所は、東京都港区青山三ノ四ノ七カストアンカー4D(二〇三・四〇八)三六二。

★百科マーケティングセンターの北山司氏が、三月一日より神戸新聞会館1Fで、サニータウン・ギヤラリーを開かれます。

★青屋ルナホールで三月二十四日プレイ・オン・ザ・ステージ・モダンダンス今岡環子ノ加藤きよ子ノ声元加代ノ河崎寿美子ノ上甲裕久ジョイントリサイタルが、午後六時十五分頃から開かれます(一、〇〇〇円)。切符のお問合せは区加納町五丁目センター街東入住友銀行六F今岡環子舞踊団へ。

★デザインの中島嘉子さんは、三月五日に、アトリエをトアロードにオープンされました。新住所は、神戸市市田区北長狭通三丁目三ノ一クロスビル1F、アトリエ・ロシバ、電話(三三二)三六八

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



又平の鰯

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (331) 0935



おいしさが
口いっぱい
ひろがる……
本場の味



- 三宮センター街柳筋店
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店
TEL 576-1191
- 平野店（平野市場内）
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンブラザビルB₁
TEL 391-3793

— オリジナル **L** サイズ —

— 草履新発売 —

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



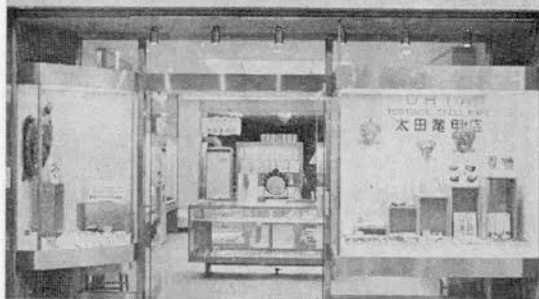
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

SPRING KOBE SHOPPING

太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL(321)0356



ご入学 ご卒園の

お祝いは学習シリーズ

その他数多くの商品の

おもちゃの

カメヤ

中からお選びください

三宮方面でのお買物は……

さんちか店 ファミリータウン 391-4045

三宮店 センター街山側 331-4969

元町方面でのお買物は……

元町店 元町通3丁目山側 331-0090

パンブウ店 元町通1丁目不二家前 391-0768

おすし
てんぷら



栄 彌



本店

大丸前・三宮神社東

TEL(331) 567314

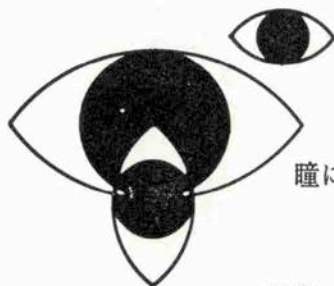
支店

さんちか味ののれん街
TEL(391) 52333
(第3水曜日休み)

営業時間

A.M.11.30~P.M.9.00

SPRING KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)

神戸国際会館内 TEL(251)8161・(231)2570

やっぱりうまい
むさしのとんかつ



コーベ三宮
ムサシ

でんわ・

321 321 331 | 三七七
一〇六三三
五

□連載小説

異人館物語 〈8〉

ジェームス山哀歌

小山牧子

え・石阪春生

「ガッデム（畜生）ノガッデムSCAP（連合軍）!!」
ジェームスの唇から、英国紳士らしからぬ下品な罵り
声が、きりもなく吐きすてられる。

動物園のオりにほうり込まれた熊公かなにかのように
いらだち、部屋の中を目的もなく大きな歩幅で歩きまわ
るジェームスの様子に、長年つれそった老妻もさすがに
おろおろした。

「ダーリン、きょうもやはり……」

日本が無条件降伏をしてから一カ月がたった一九四六
年（昭和二十年）の九月、すでに底冷えのするカナダの
ジェームス邸の庭では、楓の葉が美しく紅葉していた。
が、ジェームス夫妻の表情は、その明るく彩色された自
然の色とは不似合に暗い。

「ガッデムノマツカーサーのクレイジイめ!!」

「どういう意味でございます?」

「意味だって?」

ジェームスは痙攣発作におそわれたかと見まがうヒス
テリックな高い笑声をたてた。

「意味もなにも、子供でもファースト・トークで納得で
きる理屈を司令部の連中は、ガンとして聞こうとしない

あらずし 年のころ五十歳を少しすぎたと思われる初老の女が塩屋の高
台をゆくり降りていく。彼女、中井ふさは二十歳をこそこど郷里の潮
畔村を出、英国系カナダ人E・W・ジェームスの雇人となり、五年前ジ
ェームスが逝くまで彼の寵愛を受ける。彼にちなんだ名づけられたジェ
ームス山の中腹から塩屋の海を眺めながら、彼女はジェームスとの過ぎ
し日の出来事に思いをはせていく。

明治時代といえは多くの異国人が神戸に移り住み、西欧文明を背にし
て活躍した頃だが、E・W・ジェームスも数少ない相場師の一人で、兵
器売込みでもうけた金で塩屋の不動産に目をつけはじめていた。そして
塩屋のジェームス山はしだいに大規模で自然と調和した外国人居住区に
できあがっていった。そしてジェームスの雇人の中に、ジェームスから
ひとときかわいがられた中井ふさの姿があった。ふさは第二次大戦で
国外追放となったジェームスの代りに彼の残した財産を守りぬく決意を
固めた。しかし戦争が激化するにつれて彼女は同胞の敵意にかこまれ、
深い挫折感を味わわねばならなかった。

んだ

足を止めた彼は、気落ちのした表情で夫を見守る妻の
前に立ちほだかり、そのやつれが感じられる骨だった肩
に手をかけてゆすった。

「いいかファニー、聞いてくれ。日本への入国許可証を
受けるのに、司令部の奴等は、きょう私に突然、こんな
ことを言いだしたのだ。『司令部では、現在のところ日
本に住居を持っている人だけにだけ入国許可証を与えていま



は、悲しげにふるえを帯びていた。
「ソリイ・ベリ・ソリイ、あなたにこんな話をしても仕方のないことだった……」

ジェームスは、最近、妻の健康状態がかんばしくないことを知っていた。温雅な風土の日本で長く暮らしてきた老妻に、ここ数年のカナダの酷しい冬が身にこたえたのだらう。

「いいえ、アーネスト。私、なんとか、あなたの助けになりたいといつも思っているの。以前の若かった時のように……」

けなげな妻の言葉に、不遇をかこつ老事業家の胸の黒い怒りのかたまりが少しづつ溶けてゆくようである。そして、彼は、妻の顔を感慨をこめて見つめた。

そうだった。この妻は、いつの時も、夫の事業をねばり強く支えてくれていた。夫であるジェームスが、一個の欲望機関車となつて、日本経済界をあちこちに掻き傷を作りながら驕進していた時、内に争厳な闘争心を秘めながら、表面はあくまでも貞淑でつつましい金髪の女の笑顔が、どれほどジェームスという企業家のイメージをやわらげるのに役立ったことか。

その妻も、いまは老い縮んだ。ジェームスの脳裏を、この妻と共に乗り越えてきたけわしい山道にも似た苦しみ時代と、あの塩屋の邸宅に落ちついてからの静かな安らぎに満ちた日々の記憶がよぎり過ぎた。

やがて、心がなごんだジェームスは、窓辺に立った。居間には、すでに暖があかかと燃え、戸外の紅葉した楓の木の上にある空は、冬の色である。厚い灰色の雲から、氷雨に似た大粒の雨が、刃のように窓ガラスに斬りかかる。

ジェームスは、深い吐息とともに思った。

す。ところが、ミスター・ジェームス、あなたはいま、日本に住むべき家をお持ちにならない。したがって、入国を許可することはできません」っていうんだ」

「まアノ」

「ひどい言い草だとは思わないか？あの日本にある六十戸近い西洋館は、私の持物ではないというのか。私が額に汗して拓いた土地に私が建てた館ではないというのか。その館も、連合国の日本占領軍に接収されているというではないか。いわば、占領軍は、私の財産を盗んだ泥棒ではないか。マッカーサーは、その泥棒の親玉ですよ。その泥棒が、私の住む家まで取りあげておいて、おまえは、日本に行っても住む所がないから、日本人国はならんとおっしゃるのだ。馬鹿らしいのを通り越して、これは、まったく滑稽ですよ。漫画ですよ……」

「アーネスト、可哀そうに。あんなに戦争が終るのを待ちかねていたのに、望みをこの日に託していたのに……」

まだ荒い息遣いがおさまらぬ夫の顔を見上げる妻の声

——またカナダの冬がくる——と。

国土のほとんどもが凍土におおわれ、川も湖も氷の下で息をひそめる酷しい殺伐としたカナダの冬が——。

同じ冬でもジェームスの館がある、塩屋の冬はなんと暖かく、うるおいにみちていることか。木々の葉は冬の日さしの中でもきらきらと輝き、いまごろはたぶん、紫の果肉が甘ずっぱいアケビの実が熟するころだ。

「帰りたいですわねえ、アーネスト。早く日本へ……」窓辺に立つ夫に、ひっそりとしてよりそう妻の唇から、ふとそんな言葉がもれる。二人にとって、日本はすでに帰るべき故郷になっていたのだ。

——帰れるとも。必ず今年中に、あのなつかしい日本の土を踏んでみせる。帰る。必ず日本へ帰る。——そう心に言い聞かせるジェームスの目に、再び怒りとは質を異にするファナチックな光が然えはじめた。

「そうだ、ファニー、帰るのだ、いますぐに!!」振りかえって妻を見るジェームスの顔がぱっと明るんだ。

「でも許可が……」

「なんとかなるさ。許可などなくても、行ってしまえば占領軍の司令部だって承認せずばなるまいで……」

行動派のジェームスのことである。そう決意すると早速、渡航準備。妻を連れて極東むけの船に乗り込んでしまった。

が、その種の強引さが成功するのは、運命がその男にむかって微笑みかけている若い頃のほんの一時期ではないだろうか。

連合国が、自国の国運をかけた大戦の間、軍需産業から手をひき、自分の財産の安否だけを気づかいながら隠棲して過ごしたジェームスは、資産家ではあるにしろ企業家としては忘れられた存在である。そして、彼の名を記憶している軍の要人は、戦争に協力しなかった守銭奴として、ジェームスに批判的であった。

だから、日本の近くへやってきたからといって、おい

それと入国許可を与えるほど甘くはない。

夫妻は、当時まだ国際都市であった上海にたどり着いたところで足止めをくった。そこからは、一步も日本へ近づくことを許されない。上海のホテルに宿泊したままジェームス得意の策をほどこす術もなく、焦燥にみちた虚しい日が流れた。

そして、その年、暮れもおしつまってから、日本で暖かいクリスマスをとの願いがかなわぬままに、すこすこカナダに戻ってゆかねばならなかった。

忘れられたといっても、さすが往年の名士、O・B・E（英帝国勲章授章者）E・W・ジェームス氏、失意の内に帰国の報は、カナダの報道陣に関心をもち、帰国早々にインタビューがなされたのであるが、その席上、彼は、日頃の忿懣のすべてをたたきつけた。

「司令部の政策は、非常に公平を欠いていると私は思う。現在、日本への入国許可が与えられている成上り者と、そうでない私との間には、納得のできる生活条件の違いなど一つもない。私に入国許可を与えない理由は、まったくもって司令部の都合に過ぎん。彼等、許可が与えられた連中と私の違いは端的にいうならば、彼等がマッカーサーのお気に入り、常に元帥のとりまきとして互いにうるおしあっているということだけだろう。そして、私はそのことをオフィシャルリストの道に反することであるとの堅い信念をもって生きてきた男である。」

この司令部とその頂点にあるマッカーサー元帥への痛烈な批判の言葉は、活字となって世に流され、当然、それは司令部の情報機関の目に止まり、元帥へと報告されたのである。

勿論、元帥は烈火のごとく怒った。で、規則をたてまえとしたそれまでの司令部の政策は、ことE・W・ジェームスに対しては、マッカーサー元帥とその側近の個人的憎しみに変ってしまい、入国許可は、当分の間、絶望的なものになった。

それから二年、ジェームスはカナダにとどまり、その

□新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈3月号予告〉

☆グラビア「女の四季」①

大原ますみ

☆「シルクロードの国々」 小山 保

☆「This is NARA」

☆「And His Ladies」②⑤ 中西 勝

☆「私の散歩道」

池坊保子、滝川勝二、藤沢恒夫

☆連載対談②③

陳舜臣、筒井康隆

関西の文学土壌

☆七周年特別企画

座談会「関西の復権を目指して」

奈良本辰也、木村重信、水谷顕介、久我三郎

☆オセアニア紀行②

木崎国嘉

☆激動のアラブを行く④ 林 龍比古

☆商売の最前線「鼓月」

☆「織田作之助伝」⑬

大谷晃一

☆新連載「播州歴史散歩」

黒部 亨

☆新連載「競馬酔狂伝」

新橋遊吉

月刊オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝町80 梅新東ビル7F

TEL 06-364-2434~7 (代)

間ジェームスがいわゆる成上り者と批判した連中は、物資欠乏の極にある戦後の日本を活躍の場として、貿易の甘い汁を存分に吸いあげていたのである。

一九四八年（昭和二十二年）の末、更にさまたげに手をつくしたという以上に司令部の占領政策の変更によって、ついにジェームスにも希望の入国が許れる時がきた。なつかしい日本ノそこに残してきた経済アニマル・ジェームスの分身たちノ土地は？多くの異人館は？

が、帰りついた日本で老事業家 wait していたものは、冷酷な現実だった。経済界は、すでに完全に新旧勢力の交代がなされたあとで、貿易の面ではジェームスが利権に加わる余地はない。六十戸に近い館は占領事に接収され、そうでない館には一例のアメリカから、倉庫の下積みになって腐りかけている食料をただ同然で買いたたいて、運び、日本の飢えた国民に売つけて、ほとんど丸儲けに近い利益を独占している外国商人の住居になっている。家賃は、一戸が五〇〇円たらずに統制されている。その安い家賃に引きかえ、当時、日本の米価は、なんと一升につき二百三十円ほどでした。

カナダにあつて夢にまで見たジェームス邸は、米軍の将校クラブになり、彼自慢の美しい芝生の真中には、不

粋なブラック建物のダンスホールが建ちあはだかつている。山の木の方は、窮乏生活を強いられいている近辺の日本人が伐り倒して燃料にしてしまひ、山は丸裸である。

予測はしていたものの、塩屋に着いたジェームスは、かつての自分の王国が手のほどこしようもなく荒廃しているさまを見て、しばし呆然とした。が、老いたりといえ、アメリカ大陸に白人の国を築いたアングロ・サクソンの末裔ジェームスである。祖先から受け継いだ開拓者魂は、すぐにむくむくと頭をもたげた。

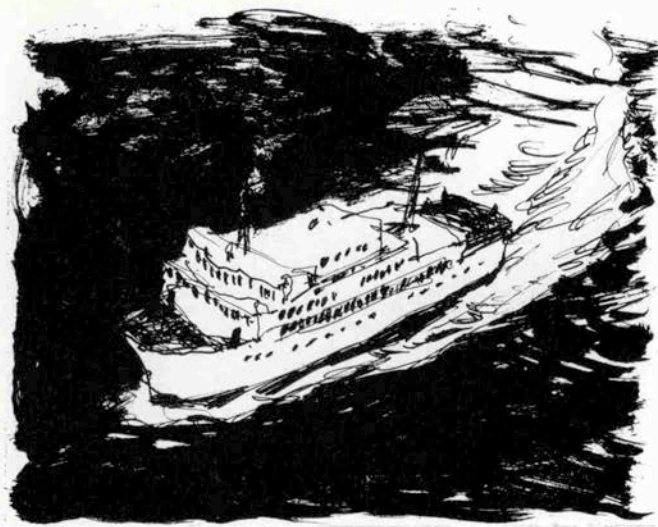
「ガッテム、度しがたい貧乏人ども。戦争は、まず、彼等、貧民を律する秩序を失わしめたい。だが、見ていろ。私が帰ってきた以上、もはや日本の貧民やアメリカG Iに私の持物から自由に盗ませはしない」

翌日からジェームスの大車輪の活躍がはじまった。司令部との財産の返還交渉、山をもとの状態に戻すための資金集め、土木、建設会社との交渉、等々戦後三年たらずの日本では、どの一つの仕事をとってみてもスムーズに事が運びそうなのは一つもない。

(つづく)

曲線ハイウェイ

武田 繁太郎
え・横 塚 繁



あらずじ ★東名高速 浜名湖サービスエリアで、多木洋介は若い神戸の女性宇津康子と知合い、幾度か逢瀬を重ねた。康子の魅力にひかれた多木は、正体を知るため、神戸出身の友人岡本和彦と共に東名神を通り、神戸へ来た。康子を見出せぬ多木は、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山をドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、始めて感じるいとおしさがつづいた。その夜須磨のホテルで二人は愛をたしかめあった。そしてさりげなく二人は別れた。

そしてある日突如として現われた康子からの電話で、レストランで会った多木は、その足でTホテルに向い二人の愛を確かめた。その翌朝、風のように去っていった康子を追いつた神戸にきた雪の多木は、友人岡本の早谷み込みと、神戸の雰囲気の中で辰野英子を探している自分に気付いた。そして、数軒の店をめぐり歩いた後、英子を見つけた。

そこでの約束どおり、二人は淡路島へのドライブに出た。西海岸をめぐって後、二人は州本の海岸近くのホテルに憩った。神戸に戻ったのはもう夜だった。エキゾチックなムードを楽しみ食事を終え、薄暗い街で多木は中年の男と寄り添って歩いている宇津康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木の元に、宇津康子からの屈託のない電話が入った。十日間も二人で過ごせることになる、多木は北海道へのドライブを決めた。彼等の乗り込んだフェリーは夕刻静かに岸壁を離れていった。

ドラの音が、ひと気のまばらな岸壁にひびいていた。午後六時、しれとこ丸は予定どおり、夢の島のちかくにある辰巳埠頭を解纜した。

多木と康子は、デッキにでて、出航風景をながめていた。神戸暮しの康子には、見馴れた風景だったろうが、多木には、結構、見あきのしない眺めだった。

眼下の岩壁に、一人の若い女性がたつて、船から投げられた赤いテープを握っていた。「フェリーでも、あゝして別れを惜しむものがあるんだな」

「そりゃ、遠い北海道へいくんですもの。明石から、目のまえの淡路へわたると、わけがちがうわ」

康子も、岩壁の若い女をみおろしながら言った。

テープをなげているのはどんな船客だろうかと、多木は、デッキから身を乗りだすようにしてうかがったが、多木のたっている場所からはみえなかった。

たぶん、若い男だろうと、多木は、勝手に想像した。

二人は恋人同士で、男が遠いさいはての土地へ旅だつていくのを、女がいつまでも別れを惜しんで見送っているなんとなく、メロドラマの一コマのような想像だと、多木は、自分で苦笑しだした。

だが、多木にそんな想像を抱かせるほど、出航風景には、あわただしさのなかに、一抹の哀愁のようなものが漂っている。それは、旅の愁いに通ずるものがあつたしれとこ丸は、暮れなずんでいく東京湾の沖めざして徐々に動きだしていた。いつのまにかテープも切れ、岩壁にたちつくしていた若い女の姿も、夕闇のなかに消えていた。

船はしだいにスピードをあげていたが、一万トンにちかい巨体なので、まったく船の揺れを感じさせない。ただ間断ないエンジンのひびきがきこえてくるだけである快適な船旅がたのしめそうであった。

「夕めにしようか」

多木は言って、二人は船内にはいった。

食堂は、上下のデッキに二カ所あつた。上の食堂は、街のレストラン並みで、だす料理もよく吟味されていた。食堂のとなりは、バーとダンスホールになっていた。

二人は、食堂で夕食をすませ、いったん船室に戻ってから、八時ごろ、また上のバーへ顔をだしてみた。

十人あまり腰かけられる止り木は、ほとんどいっぱい、二人は、やっと隅の止り木に席を占めることができ

た。ホールにはバンドがはいり、もう大勢の客たちが踊っていた。若い男女は、みんなゴーゴーだった。

二人は、水割りを呑んだ。船で呑む酒はやすい。それで、十分バーのムードを味わえるのだから、街のバーの酒がいかに高いものか、多木は、あらためて思い知らされたような感じだった。

「踊ろうか」

酔ってきたところで、多木は、康子の腕をとって、ホールにはいった。

二人は、かるくゴーゴーのステップを踏みあつた。康子の長い栗色の髪が、七彩のライトをあびて、半ば顔をかくすように、きらきらと輝きながら波うっていく。多木のステップも、興に乗ってきた。

ホールの壁ざわには椅子がならべられてあつて、ここでも、客たちは酒を呑みながら、踊りの群れをながめている。ホールは人いきれでむんむんするほどだった。

船窓からは、遠くに陸の灯がまたたいてみえた。どうやら、横浜の街の灯らしく、その右手のむこうに、川崎のコンビナートの火が、えんえんと夜空をこがしていた。出航して、もう三時間ちかくたっている。多木は、船は東京湾をでたあたりかと思っていたのだが、さすがに船旅はのんびりしたものだった。

十一時すぎ、ホールをでて、甲板にでてみた。船はようやく内房をとって、外海にでたらしい。波で、船体はずかしく揺れていた。風がかなりきつい。二人は、そのまま、船室に引揚げた。

陸の十一時なら、まだ宵の口だが、狭い船の部屋ではもうベッドにはいるよりほかはない。

「もうすこし夜をたのしめる設備がほしいわね」

遊び好きの康子は、ちよつと不満そうに言った。

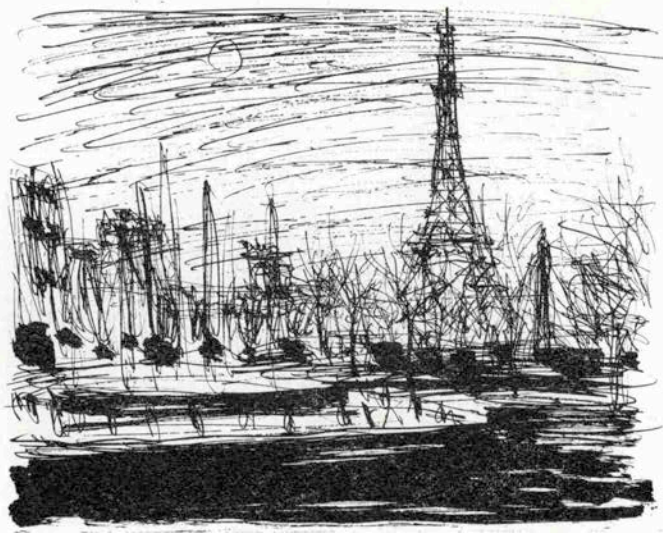
「うむ。ヨーロッパあたりのフェリーなら、お客を退屈させないように、デラックスな設備があるんだろうが、日本のフェリーはまだまだだ。ようやく大型の長距離フェリー時代がはじまったばかりなんだ。いまのところ

は、お客とクルマを選ぶのに精いっぱいというところなんだろう」

多木は、狭い船室をみまわして言った。こういう個室も、一般の客船にくらべたら、まだ貧弱なものだった。

二人は、寝る支度にかかった。

「でも、やっぱり、はじめてのフェリーの旅で、疲れた



みたいね」

「じゃ、今夜は、ゆっくり眠るんだな」

二人は、昨夜、赤坂のTホテルで、しばらくぶりに陸みあっていった。

昨夜は、多木は、いつになく、異常なほど燃えた。神戸であの外人の姿をみせつけられたことが、かえって、

彼の気持ちを昂ぶらせていたのかも知れない。多木は、三度も、康子にもとめた。

「どうしたの？ 今夜のあなた」

と、康子はいぶりながらも、彼女もまた、そのたびに、多木の愛撫にこたえて、全身を溶かしていた。

今夜、別れて眠ることには、二人とも、それほど不満はなかった。二人は、寝る支度をととのえたと、どちらからともなく抱きあい、キスをしただけで、それぞれのベッドにはいった。

翌朝、二人は、九時ごろ目ざめた。

「眠れたかい？」

「ええ。ぐっすり。エンジンの音も気にならなかったわ。お酒のおかげかしら」

康子は気嫌のいい顔で言った。

しれとこ丸は、太平洋上を一路北上していた。午後、船内放送が、金華山沖から陸中海岸を通過中だと知らせた。

二人は、甲板にでてみた。船は陸から五、六キロほど沖を航行していた。この陸中海岸は、海岸線が複雑にいくんでいて、いわゆるリアス式の海岸として有名である。あいかわらず風はきつい、空はよく晴れていて、さすがに美しい眺めだった。

「すてきね。この航路のハイライトね」

「うむ。ぼくは以前に、あの海岸の道をクルマで走ったことがある。陸からの海の眺めもよかったが、海から陸をながめるのも、またちがったよさがあるな」

二人は、見物の乗客たちに混って、ゆっくりとうろつていく海岸の変化に富んだ風景をみほれていった。

しれとこ丸は、津軽の海を起え、その夜の十二時ごろ苦小牧港の沖合に碇泊した。ここで一夜をあかし、早朝六時ごろ、フェリーの発着場に横づけされた。

港には、まだ朝靄がたちこめていた。薄紫色のその靄のむこうに、広漠たる北海道の原野がひろがっているようであった。

神戸の催し物 3月ご案内

<音楽>

- ★ **アート・ブレイキとジャズメッセンジャーズ**
3月5日(月) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
入場料 S ¥1,900 A ¥1,500 B ¥1,000
- ★ **フランク・ブルーセル、グランドオーケストラ**
3月12日(月) PM6:30~PM8:30 神戸国際会館
民音、会員制 A ¥2,000 B ¥1,500
- ★ **ビリー・バンバン**
3月22日(木) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
神戸労音 会員制
- ★ **フレッシュ・フォークコンサート**
赤い鳥+五輪 真弓
3月26日(月) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
神戸文連 入場料 A ¥1,500 B ¥1,300

<演劇>

- ★ **早春の賦**
3月13,14,16日 毎夕 PM6:15~PM9:30
神戸国際会館
神戸労演 会員制 ¥800
劇団新人会公演 作/津上 忠
演出/八田 満穂
出演/鈴木 瑞穂(客演劇団緑) 井上昭文、前田昌明、
長山藍子、他劇団新人会

<奇術>

- ★ **印度大魔術団ショウ**
3月24日(土) PM1:00 神戸国際会館
神戸ライオンズ20周年記念協賛行事
入場料 A ¥1,500 B ¥1,000 C ¥500

<その他>

- ★ **ホリディ・オン・アイス**
3月7日~11日 神戸中央体育館
7,8日 PM6:00 9,10日 ①PM2:00 ②PM6:00
11日 ①AM10:00 ②PM1:00 ③PM4:00 開演
入場料 S ¥2,200 A ¥1,800 B ¥1,400 C ¥1,000



全館指定席

HOLIDAY ON ICE

8年振り待望の

神戸公演 //

「こうして船のうえからながめているだけでも、内地の景色とはスケールがちがうわね」

康子には、はじめて目にするさいはての地であった。下船開始で、二人を乗せたマークVは、しれとこ丸に別れを告げると、港の構内をでて、まだクルマのかげもまばらな国道三十六号線を、札幌めざして北上していった。

頭上を、ジェット旅客機が海のほうから、高度をさげながら追い抜いていく。千歳空港をめざしているのだ。ここは、東京・札幌間の空路にあたっていた。

千歳の街から、高速道路にはいった。この沿線にもまた、ひろびろとした原野がひろがっていた。

「すてきね。いかにも北海道にやってきましたって感じだわ」

康子は、車窓を流れていく風景に目をうばわれていた。森や林のまをぬって、北海道特有の、赤や青の原色に彩られた、とがった三角屋根の群れが、点々とちらばっていた。内地の人家のくすんだ黒い屋根をみなれた康子の目には、ひどく開放的で、明るい光景にみえたのであ

らう。

札幌市内には、苦小牧から一時間半ほどで着いた。多木は、予約しておいた中島公園のそばのPホテルに、まっすぐクルマを乗り入れた。

今日は、一日札幌でのんびりすごし、明日の朝、多木の言う「秘境」の村にでかけるつもりであった。

二人は、Pホテルで朝食をすませ、ひと休みすると、さっそく、市内見物にでかけた。多木は、去年の夏休みに、P大の仲間たちと北海道をまわっていたので、札幌の地理は、いちおう頭のなかにあった。

エルムのそびえる北大の広大な構内。札幌オリンピックの行われた大倉山ジャンプス。スケート競技の行われた真駒内など、康子には、みるものすべてが珍しかった。だが、札幌はさいきん「リトル・トウキョウ」などと呼ばれだしていた。駅前の大通り、その下の地下街、あるいは、バーやクラブの密集しているススキノなど、市の中心街は、東京などとほとんどかわらなかった。それだけ、北海道の街らしい特色が失われてきたように、多木には感じられるのである。

(つづく)

を照らしているに違いありません。
「神戸っ子」を今後より一層充
實したものに発展させるように努力
して下さい。「神戸っ子」は神戸を
想うひとの集まりだと思っています。
神戸をいつまでも愛しております。

★私は日本人の忘れっぽさに、そしてまた、ブームへの弱さに断固否定

安部 朝比奈 青木 砂野 乾野 石野 榎野 牛尾 岡崎 小曾根 小淵野 金井 嘉納 嘉井 柏井 小石 小林 芳林 正夫 重隆 正雄 仁彦 一明 朗一 忠造 真夫 一ツム 正彦 治平 健一 良平 芳夫

津玉田田滝竹角砂塩新白雀阪坂古後上小小
高井中宮川川中南田路谷川部本井林藤林林泉
和 健虎勝清 猛重義秀 昌之時喜末英秀徳
一操郎彦二一郁夫民孝雄渥 之介勝忠楽二一雄一

神戶市青年會議所	行吉哉女	百崎辰雄	村崎正二	宮地襄二	宮崎辰雄	松井高男	福富芳美	深澤惣吉	畑澤幸二	野部圭還	南波三郎	難波西勝	中卷弘親	西脇太一郎	直木健吉	外島吉馬	竹馬準之助
----------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------

だには神戸っ子です。でも、パ
ラは好きです。神戸も愛してゐ
る。別れたひとと神戸であつた……V
このうたは大好きです。」
別れた人の顔もおぼろげになつた
今、新しい何かを探しながら神戸の
道を歩く逢崎期後半を迎えた23才
の乙女が私です。
でも熱は捨てません。熱情も拾
います。いつの日にか、誰か相手が
決まれば神戸のまちでネクタイを連
んである日が来るかも分りません
ことしあたり、こんなお便りを出した
ことを忘れて、第二次ベトナムに
使手するはずです。
い。頑張ってください。

★港の夜景を見ながらいとも神戸の街を思い出していました。今、大好きな神戸の街に住んで神戸の香り一杯の「神戸っ子」を読むことが出来たととても幸せです。これからもハイセンスムード漂う「神戸っ子」を期待しています。

△東灘区 杏子▽

★三号で、神戸っ子も十二周年を迎えました。本誌の顔である表紙絵もこの号だけ小磯良平先生の油彩のパレリナです。

小磯先生も参加されて、神戸をフアッション都市にという動きが活発化してきました。十二周年を記念したのトップ座談会も、その胎動の一端になればという企画です。風土にふさわしい文化を育て、産業を育てることが、神戸っ子の責務ではないでしょうか。

△小泉康夫△

★神戸っ子十二周年記念のブルーメ

★新カラー企画「神戸のディテール」

と北野町をあるく。どんどん破壊さ
れる異人館にガツクリ「アレ、あそ
こにもあらへん」「今のうちに撮っ

とかなアカンでエ！
 ∧小泉 美喜子∨

神戸っ子ごあんない



★月刊神戸っ子を毎月お読みに
なりたい皆さま、また神戸を離れて
いるお友達に、神戸の香りをとおどけ
になりたい方は、編集室あてにお申込
み下さい。さっそくお送りします。

6 力月分 一、二〇〇円
1 年分 二四〇〇円（送料共）

★月刊神戸っ子に紹介されている神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれています★月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。

コウベツックス
 ニュー漢口
 漢口堂
 漢口書房
 漢口洋行
 漢口館
 漢口大丸
 漢口前

[illegible]

設」いよいよ出脱の運びとなつた。少しでも多くの民に読んでいただく、福祉社会の実現に役立てばと願ひます。――

★大正ロマンが昭和に衰えて、ともに染み込んでくる。現代に愛されてこれ何如？竹久夢二と神戸に臨海を歌おせった近代美術師の方々、御協力下さい。近代美術師の諸氏、★ふわりあつたかな日吉和子★で、背中はボカボカ、頭の中までフワフワなんです。こんなお天気がずっと続く、もうだめです。書きかけの原稿用紙の上にエンビツ投げたので、お散骨がしたくなつてしまうのです。――遊園地の噴水は、水しぶきがキラキラしてました。

★知らぬ間に過ぎゆくものが時ならば、懐けてふたに委ねまわる。そんなある日、淡路に郷草海氏を訪ねる。おさるのこと多く、ふと、時の刻む音を聞く。

★興つ助山神へ向かう石段を登つてくると、路傍に魔屋と化した西洋館がある。かつては名も知らぬモータンだのぬくもその中にもつていたのだから今は虚しく朽ちることになりました。よろしく。――

★暮 裕勝